

適合を決定できない理由

記載例(質疑応答書)

表 1

建築物の名称	〇〇会社△△△△棟新築工事
構造計算適合性判定受付番号	第 ×××××× 号
建築物の番号	1

表 2

該当図書名	申請書に不備、不明確な点が認められる事項	回 答	該当図書 該当頁等	備考
構造図 S-03	① ----- 計算書の寸法と構造図が不整合です。	構造図 S-03 を差し替えます。	S-03	■補正 □追加
構造図	② -----図が添付されていません。	構造図 S-15-a を追加します。	S-15-a	□補正 ■追加
計算書 p. 254	③ ----- -----の数値が間違っています。	計算書 p. 254 を差し替えます。	修-p. 254	■補正 □追加
計算書	④ -----の検討が見当たりません。	-----検討した結果、追-p. 1～追-p. 5 を追加します。	追-p. 1～ 追-p. 5	□補正 ■追加
計算書	⑤ -----の荷重は見てありますか。確認して下さい。	荷重を見直し、一貫計算書を出力しなおしたので、差し替えます。またこの結果、大梁 G2 のサイズを変更しました。	S-10、 S-12 上部構造 一貫計算 書一式	■補正 □追加
計算書 p. 14	⑥ -----の考え方を説明して下さい。	----- --と考えます。		□補正 □追加
その他 (申請書)	⑦ 申請書第三面の「5. 構造計算の区分」が間違っています。	修正し、差し替えます。	申請書第 三面	■補正 □追加

変更箇所説明計算書記載例 (計算書の補正の場合)

(2)

6 B25 スパン長: 2.10m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.3kN/m 0.80 6.3 床荷重【4】 P1 P1 10.0 10.0 0.05 2.00 応力 $M = 3.4, Q = 15.6, N = 0.0$ 部材 H- 250x 125x 6.0x 9.0 (SS400), 端部ボルト 3-M16 (H.T.B. F10T 一面) $A = 37.0, I = 3960.0, Z = 317.0$ 許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$ 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.07$, 端部ボルトの検定比 0.17 変位量 $\delta = 0.2\text{mm} = 1/9999$	※階段重量より $P1 = 3.9\text{kN/m}^2$ $*2.05\text{m} * 4.97\text{m} * 1/4$ $= 9.94\text{kN} \rightarrow 10.0\text{kN}$
7 SB40 L=6.56 スパン長: 6.56m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.6kN/m P1 P1 46.046.0 P2 P3 16.0 6.0 2.192.19 1.30 4.86 応力 $M = 115.6, Q = 61.2, N = 0.0$ 部材 H- 400x 200x 8.0x 13.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) $A = 83.4, I = 23500.0, Z = 1170.0$ 許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$ 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.63$, 端部ボルトの検定比 0.26 変位量 $\delta = 11.1\text{mm} = 1/590$	※小梁の設計 No.4のせん断力より $P1 = 45.6\text{kN} \rightarrow 46.0\text{kN}$ ※小梁の設計 No.6のせん断力より $P2 = 15.8\text{kN} \rightarrow 16.0\text{kN}$ ※小梁の設計 No.5のせん断力より $P3 = 5.5\text{kN} \rightarrow 6.0\text{kN}$
8 B45 (2F事務所) L=8.52m t80増打 スパン長: 8.52m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.7kN/m (両側) 床荷重【4】 (両側) W1 1.10 6.3 1.10 2.5 応力 $M = 182.3, Q = 85.6, N = 0.0$ 部材 H- 450x 200x 9.0x 14.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) $A = 95.4, I = 32900.0, Z = 1460.0$ 許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$ 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.80$, 端部ボルトの検定比 0.36 変位量 $\delta = 20.4\text{mm} = 1/416$	※床荷重【4】 電算はS3入力ですが、 小梁は安全側としS4で検討する。 ※t80増打荷重より $W1 = 24\text{kN/m}^3$ $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$ $= 2.5\text{kN/m}$ ※検討追加し、部材追加しました。
9 B39 (2F事務所) L=6.93m t80増打 スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.5kN/m (両側) 床荷重【4】 (両側) W1 1.10 6.3 1.10 2.5 応力 $M = 103.0, Q = 59.5, N = 0.0$ 部材 H- 396x 199x 7.0x 11.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) $A = 70.7, I = 19800.0, Z = 990.0$ 許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$ 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.66$, 端部ボルトの検定比 0.25 変位量 $\delta = 12.7\text{mm} = 1/545$	※t80増打荷重より $W1 = 24\text{kN/m}^3$ $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$ $= 2.5\text{kN/m}$
9' B34 (2F事務所) L=6.93m t80増打 スパン長: 6.93m, 支持条件: 単純梁, 荷重種別: 長期, 梁自重: 0.4kN/m (両側) 床荷重【4】 (両側) W1 1.10 6.3 2.5 1.50 応力 $M = 85.6, Q = 49.4, N = 0.0$ 部材 H- 346x 174x 6.0x 9.0 (SS400), 端部ボルト 5-M20 (H.T.B. F10T 一面) $A = 51.7, I = 11000.0, Z = 638.0$ 許容応力度 $f_t = 156, f_b = 156$ 曲げ検定比 $\sigma_b/f_b = 0.86$, 端部ボルトの検定比 0.21 変位量 $\delta = 19.0\text{mm} = 1/364$	※t80増打荷重より $W1 = 24\text{kN/m}^3$ $*0.08\text{m} * 2.6\text{m} * 1/2$ $= 2.5\text{kN/m}$

※構造計算書の補正(差替え)の場合は、差し替え前のページ
番号は残し、その横に修正ページ番号を記載する

変更箇所説明図記載例 (図面の補正の場合)

※図面の補正(差替え)の場合は、訂正箇所がわかるように色づけで位置を示す。

構造計算適判の申請後に、確認検査機関での修正指摘があった場合、

構造適判指摘分は 、確認検査機関指摘分は と色を変えるとわかりやすい。

